

創生相 次世代ハウス視察

四万十町 生産性向上を評価

片山さつき地方創生担当相が14日、県内の地方創生関連の取り組みを視察するため来高した。高岡郡四万十町の次世代施設園芸団地などを訪れ、「自然の良さも取り入れた上で無理なく生産性を伸ばしている。地方創生の交付金（の活用）で次の段階へ押し上げてほしい」と評価した。

片山氏は、南国市双葉台の県森林組合連合会で直交集成板（CLT）を使った事務所を見学。同町影野の集落活動センター「仁井田

のりん家」で集落営農を核とした地域づくりの現状を聞いた。

その後、同町本堂の次世代施設園芸団地にあるトマトの高軒高ハウスを訪問。同行した尾崎正直知事らが、環境制御による高収量・高品質化に加え、人工知能（AI）などの技術を活用し、「稼げる農業」への転換を図ると説明した。

片山氏は取材に対し、「地方が再生しなければ日本経済の再生はない。中山間地域の歴史あるコミュニティ

次世代施設園芸団地を視察する片山さつき地方創生担当相（右端）（14日午後、四万十町本堂）



が維持できないということがあってはいけない」と強調。「コミュニティを徹底して応援

（大野泰士）

次世代園芸団地など視察

地方創生相 四万十町で



トマト栽培のハウスを見学する片山地方創生相（中央、四万十町で）

片山地方創生相が14日、県内を訪問し、尾崎知事らと共に四万十町の集落活動センターや「次世代施設園芸団地」などを視察した。

園芸団地は3年前に完成。高さ6メートルのハウスや集荷・出荷施設などからなり、4・3センチでトマトを栽培している。衛生管理を徹底して減農薬栽培を実現したり、バイオマス燃料で暖

房用の温水を供給したりと、最先端の技術を使って収穫量増と高品質化に取り組む。ふるさと納税の返礼品に採用されるなど特産品として定着しつつある。片山地方創生相は高所作業車に乗ってハウス内を移動し、トマトの実を間近で観察していた。

視察後、報道陣の取材に對して、片山地方創生相は「自然の良さを取り入れつつ生産性を高める工夫がされており、さらなる段階に押し上げたい。地域を応援し寄り添うため、（あらゆるモノをインターネットでつなぐ）IoTや人工知能などを活用していきたい」などと話した。

平成31年1月15日（火）読売新聞朝刊31面
（1月14日 片山さつき内閣府特命担当大臣視察）